

再評価結果（令和2年度事業継続箇所）

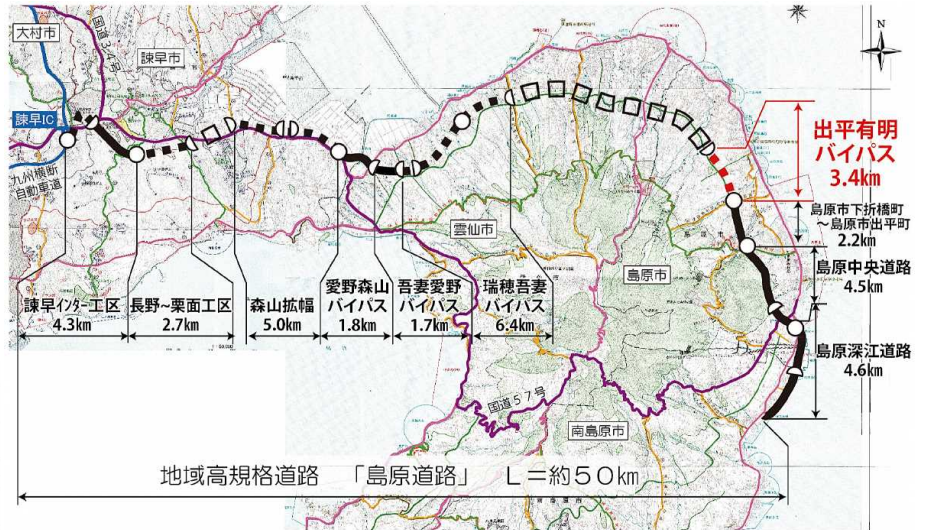
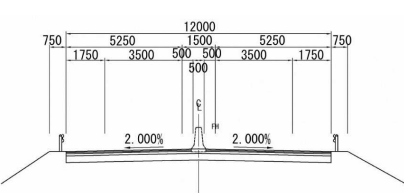
担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：奥村 康博

事業名	地域高規格道路 <small>しまばら</small> 島原道路 一般国道251号 出平有明バイパス <small>いでひらありあけ</small>	事業区分	一般国道	事業主体	長崎県						
起終点	白：長崎県島原市出平町 <small>ながさきけんしまばらしいでひらまち</small> 至：長崎県島原市有明町 <small>ながさきけんしまばらしありあけちよう</small>	延長	3.4 km								
事業概要	島原道路は、九州横断自動車道と島原半島地域を連絡する地域高規格道路である。 ・島原道路は、九州横断自動車道と島原半島を連結し、地域間の交流促進、産業の振興・経済活動の活性化に寄与する延長約50kmの地域高規格道路である。 ・一般国道251号(出平有明バイパス)は島原道路の一部を形成し、島原中央道路等と一体となって、広域ネットワークを形成する延長3.4kmの自動車専用道路によるバイパス事業である。										
H25年度事業化	都市計画決定 なし	H28年度用地着手	H28年度工事着手								
全体事業費	75億	事業進捗率	27%	供用済延長	—						
計画交通量	11,600台/日										
費用対効果分析結果	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">B/C</td> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black;">(残事業)/(事業全体)</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">(事業全体)</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">1.8</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">(残事業)</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">3.0</td> </tr> </table>	B/C	(残事業)/(事業全体)	(事業全体)	1.8	(残事業)	3.0	総費用 (残事業)/(事業全体) 44/74億円 事業費：43/73億円 維持管理費：0.8/0.8億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 132/132億円 走行時間短縮便益：90/90億円 走行費用減少便益：30/30億円 交通事故減少便益：12/12億円	基準年 令和元年	
B/C	(残事業)/(事業全体)										
(事業全体)	1.8										
(残事業)	3.0										
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施										
【全体事業】	交通量変動：B/C=1.6~1.9 (交通量 ±10%)	【残事業】	B/C=2.9~3.0 (交通量 ±10%)								
	事業費変動：B/C=1.7~1.9 (事業費 ±10%)		B/C=2.8~3.4 (事業費 ±10%)								
	事業期間変動：B/C=1.7~1.8 (事業期間±1年)		B/C=2.9~3.0 (事業期間±1年)								
事業の効果等	①地域間連携の強化 高速ネットワークの形成による諫早市地域と他地域との交流の活発化、九州横断自動車道、長崎空港等の交通拠点へのアクセス強化が図られる。 ②産業・観光分野の発展支援 輸送時間短縮や走行性向上による地場産業の高付加価値化や主要観光地へのアクセス向上による観光分野の発展への寄与が期待される。 ③防災機能の向上 国道251号は津波浸水想定箇所が存在し、防災面の課題があるが、バイパス整備により、災害時の代替え路としての機能が確保されることで、防災機能の向上が図られる。 ④地域医療の支援 第3次医療施設「国立病院機構 長崎医療センター」へのアクセス向上が図られ、緊急医療体制の強化が期待される。										
関係する地方公共団体等の意見	地元自治体で構成する「島原半島幹線道路網建設促進期成会」「一般国道57号等県南地域幹線道路整備促進期成会」等より、整備促進の要望がされている。										
事業再評価監視委員会の意見	長崎県公共事業評価監視委員会において、審議の結果「事業継続」が妥当であると認められた。										
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等	平成29年度に島原道路の一部である吾妻愛野バイパス(1.7km)、諫早インター工区(2.7km)が供用されており、平成28年度には瑞穂吾妻バイパス(6.4km)が新規事業化され、整備を進めている。										
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成30年度末までの事業進捗率は27%で、用地進捗は59%と進捗しており、今年度も用地取得を優先しつつ、工事進捗を図り、令和4年度の事業完成を目指す。										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	用地取得に関わる諸手続き等(建物移転)に日数を要し、工事の着手が一部遅れているが地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き事業の進捗を図り、令和4年度の事業完成を目指す。										
施設の構造や工法の変更等	—										
対応方針	事業継続										
対応方針決定の理由	事業の必要性を考慮した場合、事業継続が妥当と判断される。										
事業概要図	—										

位置図



標準断面図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。